

# 不二速報



発行日 2016年5月23日

第2号 新シリーズ「より良き静岡大学と職場を目指して一組合はこう考える」

第1弾 大学入試センターの負担と手当は適切か?【全教職員配布】

## 新シリーズ

### 「より良き静岡大学と職場を目指して一組合はこう考える」

「職場実態アンケート」や職場懇談会そして団体交渉等を通じて、解決すべきいろいろな問題が浮かび上がって来ました。「何かおかしい?」と思っけていても、多忙な日々にはじっくり考えることもできず、諦めていることも多いのではないかと思います。そんな問題を見逃さずじっくり分析して、問題の所在を明らかにして、解決に向けてじっくり取り組んでいく、そこに教職員組合の役割があるのではないのでしょうか?



## 第1弾 大学入試センターの負担と手当は適切か?

毎年のように担当が回ってくる大学入試センター試験の実施業務。拘束される時間の長さとともにリスニング試験などでの心労の大きさに毎年悲鳴を上げている方も多いのではないのでしょうか?

教職員組合は、この間、その負担に見合った入試手当の改善を求めてきましたが、大学側は他大学に比べて決して低くないという回答に終始して来ました。ところが、その他大学の大学入試センターの監督業務は、「何年かに1回担当する程度」の軽い負担度になっていることをご存知でしたか?

「静大の入試業務は他大学に比べて非常に重い」という一種の都市伝説のように語られてきた話が、実は事実であることが教職員組合の調査で明らかになりました。

### 驚きの事実①

**静岡大学の受験生数は、  
全国3位の多さ!**

静岡大学は、昨年8会場で7649名の受験生を担当しました。これを上回るのは、東大の3会場8159名、九大の7会場7986名の2大学のみです。旧帝大で見れば、北大3会場5489名、東北大2会場3184名、名大8会場6855名、京大6会場2350名、阪大2会場5260名です。静岡県内では1万6294名の受験生がいますが、例えば県立大は1会場1412

名のみです。静大の次に多い常葉大学が3会場1799名でしかなく、静岡大学の占める割合が突出しています。

### 驚きの事実②

**教員一人当たりの負担は、  
断トツの全国トップの重さ!!**

東大や九大などの旧帝大は、静岡大学よりもはるかに教員数が大きい大学です。東大3794名、九大2327名、名大2131名に対して静大は705名ですので、例えば九大の3分の1の教員ではほぼ同じ受験生を担当していることとなります。毎年のようにほぼ全員出勤の静大の負担の重さの理由がわかります。規模500名以上の国立大学で見れば、静大

教員の一人当たりの受験生数は、約11名であり、資料に見るように同規模の地方大学と比べても突出して負担が重くなっていることが分かります。

### 驚きの事実③

**大学入試センター関連の予算を  
公表しない静岡大学!!!**

大学入試センターからは、受験生数に応じて監督費用が各大学に支払われています。例えば、監督者は、受験生50人につき2人の監督者の配置で、1時間3,430円の単価で18時間分が支払われています。監督者1人に61,740円が支給されることとなります。ところが監督手当は1日13,000円でしかありません。この差額はどこに行ったので



そのため、静岡県内高校の大学進学者の県内大学進学率は26%にとどまり、74%が県外へ出ざるを得ない状況にある。

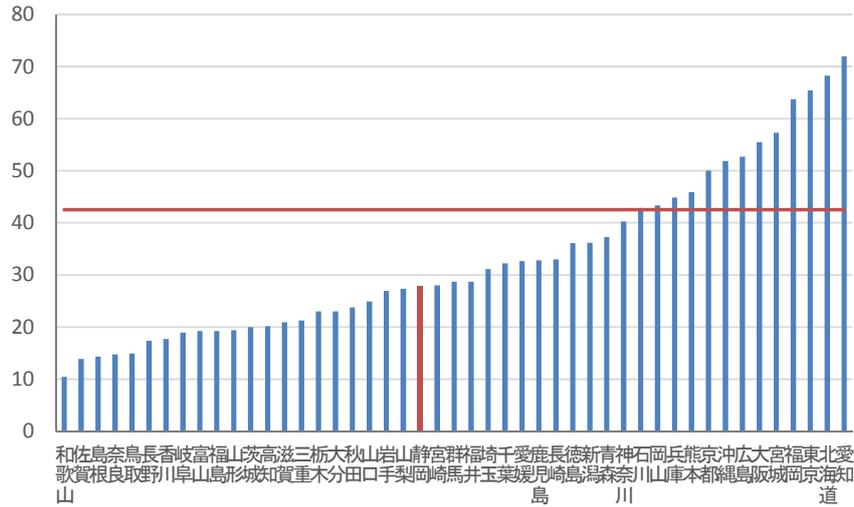


図2 県内進学率

以上をふまえ、本題のセンター試験の実施負担について見てみよう。

なお、大学教員数は大学基本情報 (<http://portal.niad.ac.jp/ptrt/table.html>) の「教員数 (本務者)」による (学長や病院を含む数字)。センター試験の会場ごとの受験者数は大学入試センターのサイトから入手した (手入力したため入力ミスについては無保証)。

大学 (※国立大学に限定) ごとに受験者数を比較すると次のようになる。

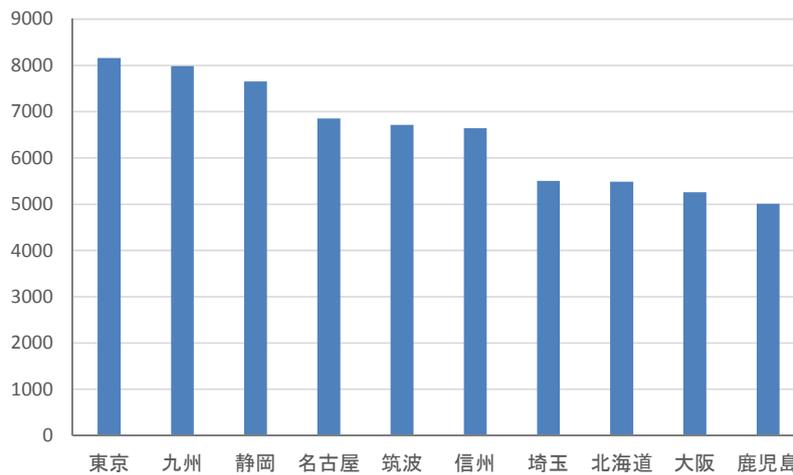


図3 大学ごとのセンター試験受験者数 (H27) 上位10大学

これは大学規模を考慮していない。教員数は、東大=3794、九大=2327、名大=2131 に対し、静大=705 なので、いかに負担が大きいかが分かる。では、受験者数を教員総数で割った負担係数を求めてみよう。全国的に見て10を超える大学は3つしかない。

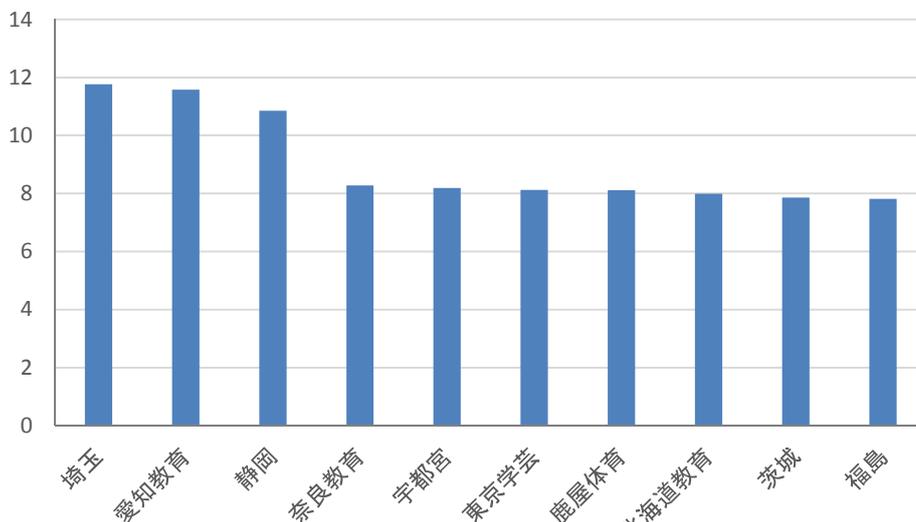


図4 大学ごとの負担係数 (受験者数÷教員数) 上位10大学

ただし、この数値は小規模の大学で大きくなりやすく、また不安定となる傾向にあるので（負担が小さいと言っている訳ではない）、教員規模 500 人以上に限定して再度プロットしてみると次のようになっている。

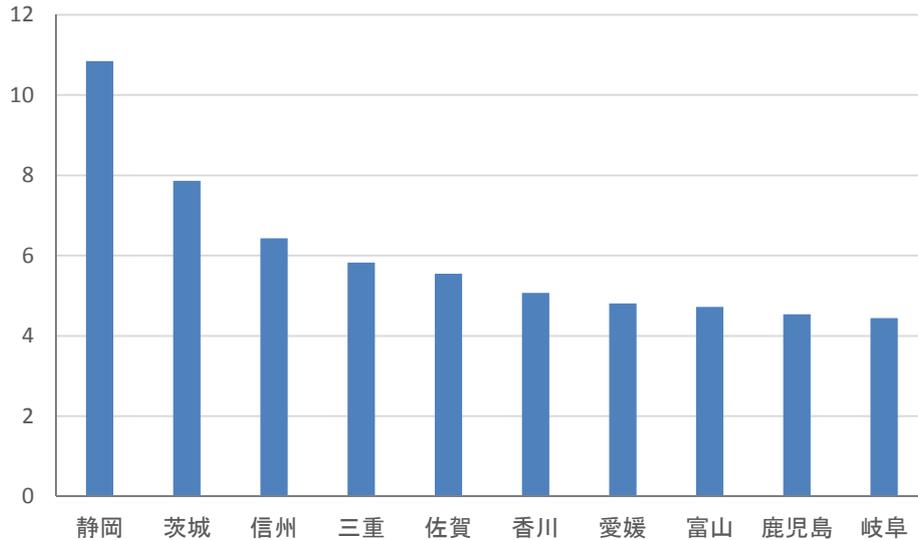


図5 大学ごとの負担係数（教員規模 500 人以上の大学）上位 10 大学

静大は2位以降に大きく引き離して1位となっている。

さらに負担に輪かけるのが高校試験会場である。負担係数上位の大学における高校会場数は、茨城0、信州0、三重0、佐賀1（1080名）に対し、静岡6（5560名）と群を抜いている。高校を4校以上担当するのは、静大の他には名大6（4818）と埼玉4（3440）しかなく、全国的に見ても特異なケースと呼べそうである。会場設営等の事務コストや移動コストはもちろんのこと、40人教室を使用することによる出勤教員増というコストの悪さが出勤率の高さとなって負担を高めている。大学入試センターが各大学へ配分している実施経費のうち、監督者の手当での積算根拠は、受験生50人に対し試験監督2人となっており、高校会場を担当する場合、手当での面でも不利となる。

なお、県内の国公立大学が軒並み高負担かという点、もちろん（！）そんな訳はない。

表1 県内国公立大学のセンター試験受験生数等

	教員数	受験生数	負担係数	会場数	うち高校	高校会場 受験者数
静岡大学	705	7649	10.8	8	6	5560
浜松医科大学	317	1295	4.1	2	1	
静岡県立大学	268	1412	5.3	1	0	
静岡文化芸術大学	81	580	7.2	1	0	

肌感覚で知っていたことがよく見えて暗澹としてきた。蛇足となるが、地域によっては離島（佐渡、隠岐、五島など）の高校を担当する負担もあるようだ。

## 組合「お試し加入」制度 やってます！

2016年4月～6月の期間中に対象の方ご加入の場合、「6ヶ月間組合費無料」となります。

※ 対象は在職期間2年程度の方 6ヶ月後に継続いただけるか確認します。

6月の組合定期大会の議決権はありませんが、それ以外の不二速報配布やメールニュース配信などのサービスは、組合員の方々と同じです。

詳細は、組合書記局にお問い合わせください。

## 2016年職場実態アンケートも実施中！

皆さんの回答をもとに団体交渉を行います！ぜひご回答ください！